（日刊建設工業新聞社　掲載許諾済み）

合材工場を脱炭素化

自家消費型太陽光発電導入

佐藤渡辺

佐藤渡辺は脱炭素化の取り組みの一環として、横浜合材工場（横浜市瀬谷区）に自家消費型太陽光発電設備を設置した。初期費用が不要な伊藤忠エネクスのソーラーエネルギーサービスを導入。従来に比べ年平均で工場の電力使用量を約7％、二酸化炭素（CO_2）排出量を約48㌧削減する。

太陽光パネルはストックヤードの屋根（806平方㍍）に287枚（109㌔㍗）を設置。6月1日に運用を始めた。佐藤渡辺が共同企業体として運営に参画する横浜合材工場では、太陽光以外にも加熱アスファルト合材の製造時にカーボンニュートラル（CN）液化天然ガス（LNG）を使った都市ガスを採用するなど環境負荷低減の取り組みを強化している。

伊藤忠エネクスが提供するサービス「TERASELソーラー」は初期費用に加え、メンテナンスも不要。発電した電力を自家消費し、契約期間内（15～20年前後）に定額エネルギーサービス料を支払う。契約終了後はサービス料が不要となり、発電設備の継続利用も可能だ。アスファルト合材工場への導入は初となる。

CNへの対応が求められる中で「初期費用ゼロでCO_2排出量削減に貢献し、本業にも集中できる」（佐藤渡辺）としている。同社は他の工場への導入検討も含め、脱炭素化に向けた地道な取り組みを継続していく。

ストックヤード屋根に太陽光パネル287枚設置（伊藤忠エネクス提供）